

小泉アパレル
22年春 夏

サステイナブル素材、 新生活様式向け強化

インド生産で差別化

小泉アパレルは緊急事態宣言全面解除後に、22年春夏物展を開く。通常は9月に開催しているが、今年は緊急事態宣言下のため、春夏物の展示はしていたが積極的な案内をせず、一部の商談にとどめていた。

22年春夏は安定供給ができるインド生産体制を背景に、オーガニックコットンや再生ポリエ

「オーガニックライフ」店頭で好調な
オーガニック素材の製品をさらに強化

ステルなどのサステイナブル（持続可能）素材を多用してSDGs（持続可能な開発目標）に沿った積極的なCSR（企業の社会的責任）活動の姿勢もアピールする。このほかコロナ禍の影響での新しい生活様式に配慮した室内外両方に対応するウエアリングの提案も強めた。

インド製品は天然繊維の夏物中心だったが、レーヨンを交えて3シーズンMDを可能にした。シーズンを細分化し、売れ残りの出やすい大量生産をなくし、見切り品を減らすことで値下げによる減益を避けるようにする。

同社は昨年から主力

のインド生産のサプライ

イチエンを強化し、安定した品質と配送を確保するための改革を進めてきた。縫製工員



の大半を月給制にして安定確保し、航空便欠便のリスクを減らすために船便を増やして、コロナ禍で多発した生産・流通の停滞が起こらない体制を整え、製品供給面でASEAN（東南アジア諸国連合）での他国生産との差別化が進んだ。

サプライチェーンでは主力素材を生機段階から自社リスクでストックして、現地メーカーの協力を得て生産リードタイムを短縮した。売れ行きの読みにくさの影響での新しい生活様式に配慮した室内外両方に対応するウエアリングの提案も強めた。

インド製品は天然繊維の夏物傾向にあり、この点でも印度の多い中国製品がコスト上昇傾向にあり、この点でも印度生産の優位性が強まる同社は見ていている。

経済産業大臣賞 岡本が連続受賞

靴下求評展

日本靴下協会は10月1日、東

京でデザインや技術に優れたメイド・イン・ジャパンのレッグウェアを選ぶ「第26回靴下求評展審査会」を開き、大賞にあたる経済産業大臣賞に岡本の靴下を選出した。岡本は一昨年に続